

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 13 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870105628		
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション		
事業所名	グループホーム すみれの丘NS		
所在地	松山市梅津寺町乙56-214 (電話) 089-907-2727		
管理者	嶋矢 あゆ美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 11 月 27 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 13 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 16.4 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000~56,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 20 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護 1	5 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 85.5 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、海を一望でき、周りに果樹園のある自然豊かな高台にあり、そこから眺める四季の表情は利用者や職員の気持ちを癒してくれる。ホームから見物する夏の花火大会は年々参加者が増え、家族間の交流の機会にもなっている。ホームの名称である「NS(ナース)」が意味するように、看護師の資格をもつ職員が多く、医療的ケアの必要性が高い利用者のサービスにも熱心に取り組んでいる。自由で明るい雰囲気があり、利用者や職員の笑顔が多く見られる。利用者の希望に応じて、制限のないその人らしい暮らしになるよう職員間で連携を取りながら、個別性のある支援に取り組んでいる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

評価結果を受け、理念の見直し、自己評価に全職員で取り組むなど、改善に向けて職員で話し合い、前向きに取り組んでいる。今後の改善に向けての取り組みにも期待できる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

全職員で関われるよう、毎日のショートミーティングで時間をかけて自己評価に取り組んでいる。職員は、ケアのあり方や他職員の考え方が分かり、自分のケアを振り返ることができると、評価の意義を理解している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

会議を通じて、利用者が地域と交流する機会が増えている。しかし、会議で話し合われる内容は報告や情報交換がほとんどで、会議の意義や役割の理解が進んでいない。今年に入っての開催は1回で、定期的かつ活発に行っているとは言えない。定期的な開催も含め、会議のあり方、持ち方や議題などを再考し、議題によってはメンバーを固定することなく広く参加を呼びかけ、チームでサービスの質の向上に取り組むことを期待する。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

来訪時や電話、さらに毎月手紙でも利用者の暮らしぶりや健康状態をこまめに情報提供している。来訪時には職員から積極的に声をかけ、要望などを聞くようにして運営に反映させている。苦情相談については、重要事項説明書にホーム内と公的機関の苦情相談窓口を明示している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

盆踊り、運動会や秋祭りなどへの参加や、大正琴などのボランティアの受け入れは恒例になっている。職員は地域行事に参加する際には住民に積極的に声をかけ、ホームへの理解を深めてもらえるよう努め、気軽に遊びにきてもらえるよう誘っている。隣接地に建設中の有料老人ホームとデイサービスが来春開設される予定で、さらに地域住民との交流が広がることが期待される。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 すみれの丘NS

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 嶋矢 あゆみ

評価完了日 平成 20 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念がなかった為、スタッフ間で話し合っ て検討している。 (外部評価) 前回の外部評価を受け、全職員で理念について再度話し 合い、結果、地域密着型サービス事業者としての自覚と 意義を盛り込んだケアサービスのあり方を示した法人の 理念を引き続きホームの拠り所とすることと、新たに各 ユニットの理念をつくることを決めている。しかし、ま とめるまでには至っていない。	※	現在、理念を作成中。 開設から2年9か月が経過し、ユニットごとの暮らし方に 特徴が出ている。利用者の現状に即した暮らしの支援に 向け、期日を設定して早急にユニットの理念づくりに取 り組むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 現在は、すみれ会全体の理念を実践するよう、心掛けて いる。 (外部評価) 理念は、日々の申し送り、ショートミーティング、ユ ニット会議等で話し合い、確認し合っている。さらに介 護計画に入れ、職員はその日に気づいたことは、顔を合 わせる時々伝え、漏れがないようコミュニケーション を図っている。また、今年、ユニットの理念づくりに取 り組んでおり、職員間の共通認識が図られる機会の一つ となっている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続 けることを大切にしたい理念を、家族や地域 の人々に理解してもらえよう取り組んで いる	(自己評価) 運営推進会議の場で、事業所の理念や方針をお伝えして いる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 地元の人にお年寄りと関わって頂けており、少しずつ交流が持てている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 回覧板を廻して頂けるようになり、どのような行事があるのかを知ることが出来、可能な場合は参加させてもらっている。 (外部評価) 盆踊り、運動会や秋祭りなどへの参加や、大正琴などのボランティアの受け入れは恒例になっている。職員は地域行事に参加した際には住民に積極的に声をかけ、気軽に遊びにきてもらえるよう誘っている。ふれあいサロンなどで利用者が参加できそうなものをピックアップして町内会に打診しているが、設備面や予算面で難しいと言われ、残念に思っている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) スタッフ間のミーティングなどで話題には挙がるものの、具体的ではない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価をスタッフ全員で行う事で、事業所の特徴を把握し改善に役立てている。 (外部評価) 自己評価は、全職員が関わられるように時間をかけ、毎日のショートミーティングで取り組んでいる。職員は、他職員の考え方やケアのあり方がわかり、自分のケアを振り返ることができると、評価する意義を理解している。前回の外部評価を受け、職員で改善に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を開催した際には細かく報告し、また地域の方の意見も参考にし、反映できるようにしている。 (外部評価) 会議を通じて、利用者が地域と交流する機会は増えてきているが、会議で話し合われる内容は報告や情報交換がほとんどで、会議の意義や役割の理解が進んでいるとは言えない。また、開設当初から現在までで開催回数は3回となっており、定期的かつ活発に行えているとは言えない。	※	定期的な開催も含め、会議のあり方、持ち方や議題などを再考し、議題によってはメンバーを固定することなく広く参加を呼びかけるなど工夫しながら、チームでサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括センターでの連絡会に出席し、意見交換を行う場としている。 (外部評価) 管理者やフロア長は、地域包括支援センター主催の介護サービス事業者実務者担当者連絡会やグループホーム連絡会に参加し、その中で行政担当者とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修で受講する機会があれば参加するようにしているものの、活用には至っていない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法については、学ぶ機会が持ていないが、施設内では注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約または解除の際には、入居者や家族と十分に話し合いの時間を持つようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見箱を設けているが、入居者や家族からの不満や意見等については面会時や日常的に話しを聞いており、改善に努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ご家族の面会時にはもちろんの事、毎月15日頃にお手紙を出し、グループホームでの様子をお知らせしている。 (外部評価) 家族の来訪時や、電話で利用者の暮らしぶりや健康状態などをこまめに情報提供するように努めている。また、月1回は手紙で利用者の様子を伝えている。金銭管理についてはレシートや領収書を渡し、出納帳に確認印をもらうようにしている。職員は、電話の時は特に表情が見えないため、時間帯、タイミングや口調などに十分配慮している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設けているが、投書は今のところなく、直接伝えていただく事が多い。 (外部評価) 家族の来訪時には職員から積極的に声をかけ、要望などを聞いて運営に反映させている。意見箱は玄関に設置しているが利用はなく、意見等は直接口頭でうかがっている。苦情相談については、重要事項説明書にホーム内と公的機関の相談窓口を明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度はユニット会議を開き、意見交換しているとともに、日々のミニミーティングも実施している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) すみれ会の勤務に関する方針に従っているが、必要に応じて調整は行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動は最小限に抑えており、利用者への影響は十分に考慮している。 (外部評価) 法人は他にも事業所を運営しているが、利用者や職員の馴染みの関係を保つことを心がけ、極力異動は行わないようにしている。ホームでは、ユニット合同で行動したり日常的に行き来する機会を多くもつようにし、顔見知り関係をつくっており、利用者へのダメージはほとんど見られない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修は積極的に受講できているとはいえない。今後は計画を立てて、受講の機会を確保するように努めていきたい。 (外部評価) 法人内で独自にミニ研修会を開催している事業所から研修会の案内があるが、参加は職員の自主性に任せているため参加できていない。外部研修も同様に計画的かつ積極的に受講できているとは言えない。管理者、職員共にホーム内外の研修受講の意義は十分理解している。	※	研修計画を立て、職員の経験や立場に応じた外部研修を全職員が等しく受講できる取り組みを期待する。また、管理者が取り組みたいと考えているホーム内の研修会は、ケアの質の向上だけでなく、職員間の意思疎通を図る良い機会となると思われるので、実現することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修資料をスタッフに公開して受講すると同時に、他の事業所スタッフとの交流を図れるようにしている。 (外部評価) 管理者とフロア長が、グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会等に参加し、他事業所と意見交換を行っている。また、法人には他にも3つのグループホームがあり、2週間毎に開催される会議を通じて、意見交換や困難事例の対応などを話し合っている。会議内容はミーティングで職員に伝え、共有を図っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年に1～2回親睦会を開き、スタッフ間で交流を図りストレス解消に役立てている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況については、日報に具体的に記述する事で把握している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に見学に来て頂いたり、来所が困難な場合は責任者が出向いていき、利用者・家族の現状をじっくりと聞く機会を設けている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) じっくりと話を聞く事で、必要としているサービスを受けられるよう、努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前後は特に、蜜に家族や利用者との関わりをもつように心がけ、早い段階で馴染みの関係を作れるように配慮している。 (外部評価) 利用者の多くは病院からの入居であり、管理者が事前に出向いて家族や病院関係者等から話を聞くようにしている。可能な場合は入居希望者と家族に見学に来てもらい、雰囲気に馴染んでもらうようにしている。入居後は、家族と相談しながら、ホームが利用者にとって早く安心感のある居場所になるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者に敬意を持って接する事を心掛け、些細な事でも共に喜び、寄り添い、支えあう関係作りを目指している。 (外部評価) 職員は、利用者を人生の先輩であると敬意を払って接している。共に生活者として暮らす中で、利用者から子育てのことや梅干の漬け方などの生活の知恵を学んでいる。入居時に寝たままの状態だった方が座位が取れるようになったことで、さらに歩きたいと意欲的になるなど、利用者の心が元気になることは、職員の励みにもなっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の不安や困った事を傾聴し、利用者ともいい関係を気づいていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時などに、些細な事でもお伝えしてコミュニケーションを図っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会は自由に来て頂き、入居者によっては友人と手紙のやり取りを行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 見守りや声かけで孤立しないように誘導しつつ、困難な場合はスタッフが介入する事でトラブルは未然に回避している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用者から求められれば快く応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り、入居者が自己決定できるような場面作りをしている。 (外部評価) 利用者の生活歴や思いは、入居時の利用者や家族からの聞き取りや、日々の会話の中で把握するように努めている。職員が把握したことはミーティング時などに他の職員にも伝えて共有し、その人らしい暮らし方の支援に取り組んでいる。しかし、記録としてまとめられているとは言えない。	※	生活歴や本人の思いは貴重な情報であるから、生活歴シートなどの記録として情報を蓄積していくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の際、情報提供書を依頼したり、アセスメントシートを細かく記入している。介護も、きめ細かくスムーズに行えるようスタッフ間の情報の共有に注意を払っている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者や家族からよく話を聞き、現状にあった関わりがもてるよう、望む介護に近づけるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成時には多くのスタッフが交替であるようにして、ミーティングで話し合った事をもとにケアプランを立案している。また、家族や本人にも意見を求めて反映している。 <hr/> (外部評価) 介護計画の作成にあたって、利用者や家族の思いや意向を聞いている。ミーティングで日々の気づきなどを話し合い、担当職員が素案をまとめ、計画作成担当者が利用者本位の介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、同意を得ている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じてプランの見直しをしつつ、状態が変わった場合は出来るだけ早期に見直しを行っている。 <hr/> (外部評価) 原則として3か月毎に見直している。評価は日々記録し、1か月毎にケア評価を行っている。利用者に状況変化があれば、随時計画の見直しを行い、現状にあった介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録は会話の内容や、気づきなどを具体的に記述しており、情報の共有に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 同事業所のグループホーム間では、柔軟な対応をしている。 (外部評価) 医療連携を活かした受診の負担軽減、通院介助、美容院、図書館や買い物など、利用者や家族の要望に対応している。また、歯科衛生士の巡回訪問があり、口腔ケアの指導なども行っている。要望があれば家族が宿泊できる体制も整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防署から、救急法の指導や防災訓練に来て頂いている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居相談の連絡があるときにGHの状況を伝えているが、積極的な関わりは持っていない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 2～3ヶ月毎に介護サービス事業者実務担当者連絡会・ケアマネ連絡会に参加し、情報交換の場としている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に希望を聞き、利用者の意向を尊重しつつかかりつけ医を決めている為、事業所の契約医ではない方もいらっしゃる。 (外部評価) 利用者と家族の希望があれば、協力医療機関を主治医にしている。専門的な医療については入居前のかかりつけ医を受診している。月2回の往診があり、必要時には他の医療機関とも連携をとっており、利用者が適切な医療を受けられるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 症状に応じて必要な場合は、診療情報提供書をDrに依頼して、専門医の受診をしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護職員を配置し、日常的に健康管理に十分気配りしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院先を訪ね、本人と面会したり担当看護師から話を聞く事で、状態の把握に努めており、早期退院に向けて連携を図っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期のケアについては、家族やDr、スタッフで十分に話し合い、度々のミーティングで繰り返し方針の共有に努めている。 (外部評価) 重度化や終末期に関する方針を定め、入居時、利用者や家族に説明している。時々家族や職員間で話題にするが、現在は利用者が必要がないため、具体的なチームでの話し合いはしていない。開設当初には看取りの事例があり、家族関係が良好になるなども含め、チームで関わることの意義を実感している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) GHのできる事はスタッフ間で協働して行えるような体制で望み、GHでは困難な場合は医療と24時間連携できる体制となっている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 転居が決まった場合は家族やケア関係者間で具体的に話をした上で、それに向けた準備を行うようにしており、出来る限りダメージを防ぐよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 介護記録は基本的に、スタッフと家族以外の目に触れないように努めており、提示を求められればいつでも応じられる。 (外部評価) 職員は、必ず利用者のそばへ行き、視線を合わせ穏やかな口調で声をかけている。また、利用者の言うことを否定することなく、笑顔で対応している。利用者の中に自分の名前を耳にすると気になる方がいるため、職員間で話し合う際、利用者が近くにいる場合は、名前ではなくイニシャルで話すようにしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 声かけする時は、自己選択できるような問いかけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人や家族とも話し合い、個人のペースに配慮した介護が出来るように努めている。また、スタッフ間でもお互い指摘して気をつけている。 (外部評価) 利用者が自由に暮らせるよう、基本的な生活のリズムづくりにも配慮しつつ個別に支援している。朝食は起床時間により自由に取り、また好きな時に入浴できる、散歩や買い物なども利用者のその時の思いに柔軟に対応している。調査時も、昼食後は居室で過ごす、リビングでおしゃべりする、テレビを観るなど様々に過ごしていた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 訪問による散髪をしてもらったり、希望があれば行きつけの美容室に行けるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りの手伝いを望まれる方はいないが、洗濯などの家事を好んでされる方がいる。 (外部評価) 食事に関する一連の作業の中で、味付けや切り方を教えてもらったり、利用者の好みや力に応じて皮むきや食器ふきなどを手伝ってもらっている。法人作成の献立を基にしているが、使う食材には利用者の希望を取り入れている。誕生会や季節の行事にはご馳走を作り、皆で祝っている。花が飾られたテーブルで利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物やおやつは、居室で管理される方がいる。タバコやお酒は現在、希望される方がいない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄管理表を記入して排泄パターンを探り、誘導や声かけのタイミングを図っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 前もって希望を聞いており、出来る限り一人一人のタイミングに合わせられるように努めている。 (外部評価) 入浴の曜日や時間帯は決めず、その日の利用者の希望で随時行っている。利用者ごとに湯を入れ替え、好みに合わせた湯温等になっている。入浴を拒否する方には無理強いはせず、声かけなど職員のチームワークで支援している。リフト浴があり、全員が浴槽に浸かる入浴を楽しめている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 現在はユニット内が非常に落ち着いており、ゆっくりと休息をとる事が出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 必要以上には干渉しないようにして、1人の時間も尊重しているが、それぞれの関心ごとには傾聴して共感する姿勢を心掛けている。 (外部評価) 職員は、利用者の興味等を把握するよう努め、意欲を引き出す働きかけを実践している。日常生活の中で、できることは声をかけ協力してもらっている。また、利用者の趣味や楽しみをレクリエーションや行事に取り入れ、皆で一緒にしたり、個別に行うなどしている。男性は一緒にすることを好まない方が多いが、職員はその意向を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理できる方は、買い物を手持ちの小遣いから支払って頂いている。他の方は、小口現金をユニットごとで管理している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 外出の機会を作ったり、急な外出の希望には出来る限る応じられるようにしている。 (外部評価) 天候や体調に配慮しながら、利用者の希望に応じて散歩、買い物、図書館やドライブに出かけている。さらに、職員が用事で出かける時に誘ったり、運営推進会議で高齢者が出かけるのに良い場所の情報を求めるなど、利用者が戸外に出かけられる支援に努めている。また、気軽に出入りできる広いテラスでの外気浴は、車いす利用者や外出をあまり好まない方の気分転換になっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 月に1度は多人数でのお出かけを計画している。家族とのお出かけは、自由にして頂いている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、家族と相談の上で電話をかけるお手伝いをしたり、手紙の投函もお手伝いしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 入居者への面会はいつでも自由にして頂いており、スタッフも快く出迎えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は出来る限り行わないように努めており、見守りや声かけで対応できている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には、窓を除き鍵は設置されておらず、玄関は夜間のみ施錠しているが、面会時は呼び鈴で知らせて頂いている。 (外部評価) 玄関は、夜間以外はチャイムと見守りで対応し、鍵をかけていない。外出傾向のある方については、安全面に考慮しながら同行している。不審者情報があったため、家族に了解を得て夜間の施錠を少し早めているが、その代替として夜間用ブザーを設置し、夜間の来訪に支障のないようにしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 定期的に居室を巡回しており、状況の把握に努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 事故や怪我に繋がる物はスタッフが預かり、入居者にお貸しした場合には確実に返却して頂くようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日常のミーティングの中で、ヒヤリハットや事故防止について話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救急時の訓練は年1回行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議の際に、地域の方々と相互に協力が出来るよう声かけをおこなっている。 (外部評価) マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、今年は5月に避難訓練を実施し、12月には夜間を想定した訓練を予定している。職員は訓練を通じて避難場所や誘導方法を確認しているが、さらに繰り返し訓練をする必要性を実感している。しかし、運営推進会議で地域の防災活動状況を聞いたにとどまり、地域との防災協力体制は確立していない。	※	非常災害時の対策において地域住民等との連携は重要であるため、運営推進会議や自治会等でホームの災害対策への理解を求め、関係機関も交えて地域住民と話し合い、実効性のある協力体制づくりを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 事故や怪我の無いよう十分気を付けているが、可能性があることは日頃よりご家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調管理を徹底し、記録を具体的に残して異常の早期発見に努めている。発見時は、速やかにDr報告し指示を仰いでいる。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は個別にボードを作り、作用や服用量を記入している。薬の種類や飲み方の変更があった時は、症状の変化に注意している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 個別に排泄状態をチェックしており、便秘時には食事の工夫や水分補給、寒天やヨーグルトを積極的に摂っていただいている。合わせて、困難な場合はDrに相談して下剤を調整している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 自己管理できない方は、食べ方や摂取量を観察して状態を把握する事で、必要に応じて口腔リハビリ・訪問歯科をすすめ、日常の注意点もアドバイス頂いている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂食状態や嗜好を把握し、献立に反映している。食事の声かけは行うが強制はせず、自分のペースで食事に来て頂いている。 (外部評価) 献立は法人の管理栄養士が作成している。食事摂取状況をチェック表に記載している。水分量は把握が必要な場合に記録しており、適切な水分量の確保に努めている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 外出した際には、手洗いやうがいを徹底している。感染対策マニュアルを作成している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理前の手洗い・布巾や調理器具のハイター消毒を行っている。食材は、週に3回八百屋さんから配達してもらっており、新鮮な食材の提供・管理に気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 来訪者がいつでも入れるようにしている。ドアチャイムにより、出入りがわかるようにして安全に配慮している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の部分は手作りの壁画を季節ごとに飾り、テラスは広々しており天気の良い日は景色を眺めたり風にあたるなどし、季節感が味わえる。 (外部評価) リビングの、海に面した側の窓は天井近くまでのガラス窓で大きく明るい。廊下は広く、そそぎ込む自然光と室内照明とで、建物内は穏やかな明るさで風通しもよく、開放感がある。利用者と職員が季節に合わせて壁画を作り、リビングに飾っている。季節の花も途切れることなく随所に活かしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングには、ソファを置いたりテーブルの配置を検討するなどし、個々の性格や相性を考えて居場所の工夫をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 寝具や家具類は、使い慣れた物を使用している。家族や友人も気軽に来所できる雰囲気作りに配慮している。 (外部評価) フローリングに畳を敷き、ホームはベットと収納タンスを用意している。テレビ、鏡台、ソファなどの馴染みの家具や、使い慣れた品、家族の写真や手作り品を思い思いに持ち込み、その人らしい居室になっている。利用者の身体変化等に併せ、安全に居心地よく過ごせる工夫をその都度家族と相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 浴室や洗濯室は換気扇を回している。各居室は訪室時に窓の開閉やエアコンでの温度調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 立ち上がりが困難な場合はベットの使用、下肢筋力が低下しているが自由に動かれる方は畳を敷く、他に車椅子やシルバーカーの使用など、個々に合わせた対応をしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室に馴染みの物を置いていただいたり、リビングのテーブルには名前入りのテーブルクロスを置くなど混乱を少なくし、自立して暮らせる配慮をしている		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) いつでもテラスに出て、景色を眺めたり話ができるようにベンチが置いてある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	個々の生活習慣に応じて、無理強いしないよう自由に生活していただいている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	リビングを中心に、来られた利用者とお話したり共に過ごす事でゆったりした時間が持てている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の生活のリズムを尊重して関わりを持っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の笑顔が多く見られるような関わりを目指しているが、一人の時間を大切にされる方もいらっしゃる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出をしたがる方が少ないが、ユニットでのお出かけを検討したり、屋外への散歩の声かけをして気分転換に努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけ医との連携が十分で、緊急時の対応もスムーズにとれている。その為か、ここで最後を迎えたいとおっしゃる方もいらっしゃる。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	常時話を傾聴し、出来る限りの対応を心掛けている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族が思っている事は、遠慮なく言われている。また出来る限り、要望や困っていることを解決できるように努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	地域の方をスタッフとして雇用したり、ボランティアの紹介をして頂いたり、利用者との関わりが継続している。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事へ参加する回数が増えた。また、その時は地域の方々が場所の確保などの協力をして下さっている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の笑顔に癒されて、やさしく接する事が出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常生活を穏やかに過ごされている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	3ヶ月に1回、ケアプランに目をとうしてサインを頂いており、面会時も含めて日常的に意見を聞いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 すみれの丘NS

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 徳田 由紀美

評価完了日 平成 20 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所としての理念は、開設当初より掲げているが、丘独自の理念は作成していない。		現在、丘の各ユニットで理念を作成中である。
			(外部評価) 前回の外部評価を受け、全職員で理念について再度話し合い、結果、地域密着型サービス事業者としての自覚と意義を盛り込んだケアサービスのあり方を示した法人の理念を引き続きホームの拠り所とすることと、新たに各ユニットの理念をつくることを決めている。しかし、まとめるまでには至っていない。	※	開設から2年9か月が経過し、ユニットごとの暮らし方に特徴が出ている。利用者の現状に即した暮らしの支援に向け、期日を設定して早急にユニットの理念づくりに取り組むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎日のショートミーティングや、月に1度のユニット会議の時間に話し合いの場を持ち、実践できるようにしている。		
			(外部評価) 理念は、日々の申し送り、ショートミーティング、ユニット会議等で話し合い、確認し合っている。さらに介護計画に入れ、職員はその日に気づいたことは、顔を合わせる時々に伝え、漏れがないようコミュニケーションを図っている。また、今年、ユニットの理念づくりに取り組んでおり、職員間の共通認識が図られる機会の一つとなっている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 遠方からの入所もあり、馴染みの地域ではない方もおり、まずはご家族に理解していただいてから、徐々に地域の方にも伝わるよう、運営推進会議などで話している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 住宅地の中ではない為、頻回ではないが回覧板を届けた時など、声をかけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 年に数回、運営推進会議をひらいたり、地域の行事に積極的に参加し、交流を深めている。 (外部評価) 盆踊り、運動会や秋祭りなどへの参加や、大正琴などのボランティアの受け入れは恒例になっている。職員は地域行事に参加した際には住民に積極的に声をかけ、気軽に遊びにきてもらえるよう誘っている。ふれあいサロンなどで利用者が参加できそうなものをピックアップして町内会に打診しているが、設備面や予算面で難しいと言われ、残念に思っている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 町内の行事に参加する事で、地域の高齢者のニーズについて話し合うが、具体的には挙がっていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 皆で話し合い自己評価に繋げている。また、外部評価を行う事で日常を見つめ直して、改善したりそれに向けて取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価は、全職員が関わられるように時間をかけ、毎日のショートミーティングで取り組んでいる。職員は、他職員の考え方やケアのあり方がわかり、自分のケアを振り返ることができると、評価する意義を理解している。前回の外部評価を受け、職員で改善に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 町内会役員の高齢化もあり活発ではないが、質問や意見等聞き、サービス向上にいかしている。 (外部評価) 会議を通じて、利用者が地域と交流する機会は増えてきているが、会議で話し合われる内容は報告や情報交換がほとんどで、会議の意義や役割の理解が進んでいるとは言えない。また、開設当初から現在までで開催回数は3回となっており、定期的かつ活発に行えているとは言えない。	※	定期的な開催も含め、会議のあり方、持ち方や議題などを再考し、議題によってはメンバーを固定することなく広く参加を呼びかけるなど工夫しながら、チームでサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月に1回、地域包括で行われる介護サービス事業者実務担当者連絡会やグループホーム連絡会へ参加している。 (外部評価) 管理者やフロア長は、地域包括支援センター主催の介護サービス事業者実務担当者連絡会やグループホーム連絡会に参加し、その中で行政担当者とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会が少なく、知識が不十分である。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 個々の介護については職員間でアドバイスしあっており、現在のところ特に問題はないが、今後は積極的に研修の機会を設けたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、内容について詳細な説明を行っているが、十分な理解を得られない部分もあり、繰り返し説明することで理解を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃より問いかけて、意見を伺っている。出来る限り、個別対応に努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時や電話、月に1回のお便りなどで詳しい状況報告を行っている。 (外部評価) 家族の来訪時や、電話で利用者の暮らしぶりや健康状態などをこまめに情報提供するように努めている。また、月1回は手紙で利用者の様子を伝えている。金銭管理についてはレシートや領収書を渡し、出納帳に確認印をもらうようにしている。職員は、電話の時は特に表情が見えないため、時間帯、タイミングや口調などに十分配慮している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、自由に意見を入れられるようにしている。また、直接話せるような雰囲気作りを心掛けている。 (外部評価) 家族の来訪時には職員から積極的に声をかけ、要望などを聞いて運営に反映させている。意見箱は玄関に設置しているが利用はなく、意見等は直接口頭でうかがっている。苦情相談については、重要事項説明書にホーム内と公的機関の相談窓口を明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的話し合いの場を持っている。意見や困った事に関しては、スタッフ間で話し合い、可能なら取り入れ、そうでないものは取り入れない理由を説明している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状態変化やユニット行事など、必要に応じて増員している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 今季、大幅な異動があったが、同じ建物内だった為顔なじみの利用者もおり、大きな混乱には繋がらなかった。 (外部評価) 法人は他にも事業所を運営しているが、利用者や職員の馴染みの関係を保つことを心がけ、極力異動は行わないようにしている。ホームでは、ユニット合同で行動したり日常的に行き来する機会を多くもつようにし、顔見知りの関係をつくっており、利用者へのダメージはほとんど見られない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 人員を確保した上で、今後進めていく予定である。 (外部評価) 法人内で独自にミニ研修会を開催している事業所から研修会の案内があるが、参加は職員の自主性に任せているため参加できていない。外部研修も同様に計画的かつ積極的に受講できているとは言えない。管理者、職員共にホーム内外の研修受講の意義は十分理解している。	※	研修計画を立て、職員の経験や立場に応じた外部研修を全職員が等しく受講できる取り組みを期待する。また、管理者が取り組みたいと考えているホーム内の研修会は、ケアの質の向上だけでなく、職員間の意思疎通を図る良い機会となると思われるので、実現することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターでの意見交換に参加している。 (外部評価) 管理者とフロア長が、グループホーム連絡協議会や地域包括支援センター主催の会等に参加し、他事業所と意見交換を行っている。また、法人には他にも3つのグループホームがあり、2週間毎に開催される会議を通じて、意見交換や困難事例の対応などを話し合っている。会議内容はミーティングで職員に伝え、共有を図っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 休憩所がない為、勤務時間と休憩時間の区別がつきにくい。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 時々施設を巡回して把握に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 出来るだけ早く顔なじみの関係になれるよう、関わりを多く持って、困っている事や不安に感じている事などを、ゆったりした態度で傾聴するようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居相談時には十分に話を聞き、困っている事や不安に感じている事の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族が相談に来られた時に希望や要望を伺い、出来る限り今までの生活と変わらない暮らしになるよう配慮している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前に、本人や家族に施設見学に来て頂き、普段の雰囲気を知っていただけるように配慮している。 (外部評価) 利用者の多くは病院からの入居であり、管理者が事前に出向いて家族や病院関係者等から話を聞くようにしている。可能な場合は入居希望者と家族に見学に来てもらい、雰囲気に馴染んでもらうようにしている。入居後は、家族と相談しながら、ホームが利用者にとって早く安心感のある居場所になるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として敬意を払った上で、日常生活を共に過ごす事で、信頼関係の構築を図っている。 (外部評価) 職員は、利用者を人生の先輩であると敬意を払って接している。共に生活者として暮らす中で、利用者から子育てのことや梅干の漬け方などの生活の知恵を学んでいる。入居時に寝たままの状態だった方が座位が取れるようになったことで、さらに歩きたいと意欲的になるなど、利用者の心が元気になることは、職員の励みにもなっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 変化があれば報告し、可能ならば協力を仰いでいる。また、面会時に様子をお話することで、話題の共有が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 花火大会などの行事はご家族にも声をかけて、共に楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時間を制限せず、自由に入出入りして頂けるよう声かけや雰囲気作りをしている。また、公共機関を利用した場合の来所の場合は、可能ならば迎えに伺っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) リビングを共有の場とし、レクや作業、会話など自由に行き来できるようにしている。また、利用者間の関わりが持てるように支援しており、ユニット間での交流もある。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) ご家族が望まれる場合は、退所後も様子を伺ったり、困っている時はいつでも連絡が取れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人らしさを考えた時、スタッフそれぞれの思いが食い違う事があり難しさを感じるが、利用者の立場に立ち検討をしている。 (外部評価) 利用者の生活歴や思いは、入居時の利用者や家族からの聞き取りや、日々の会話の中で把握するように努めている。職員が把握したことはミーティング時などに他の職員にも伝えて共有し、その人らしい暮らし方の支援に取り組んでいる。しかし、記録としてまとめられているとは言えない。	※	生活歴や本人の思いは貴重な情報であるから、生活歴シートなどの記録として情報を蓄積していくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に、詳細を伺うようにしている。入所後も、家族と連絡を取りながら把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の観察により、把握できている。スタッフの色々な意見も交換し合い、取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) スタッフ1人1人がケアプランの担当を持ち、皆で話し合って作成している。ご家族来所時に話を聞いたり、日頃の本人との関わりの中で、よりよく暮らす為の方法を見つけて、アイデアを反映している。 <hr/> (外部評価) 介護計画の作成にあたって、利用者や家族の思いや意向を聞いている。ミーティングで日々の気づきなどを話し合い、担当職員が素案をまとめ、計画作成担当者が利用者本位の介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、同意を得ている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 著しい変化があった場合は、その都度プランの見直しを行っている。また、介護保険証の更新日にも合わせるようにしている。 <hr/> (外部評価) 原則として3か月毎に見直している。評価は日々記録し、1か月毎にケア評価を行っている。利用者に状況変化があれば、随時計画の見直しを行い、現状にあった介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別アセスメント・介護記録・受診ノート等にて情報を把握・共有し、プランの作成を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 歯科衛生士による巡回訪問や、音楽療法などを取り入れている。 (外部評価) 医療連携を活かした受診の負担軽減、通院介助、美容院、図書館や買い物など、利用者や家族の要望に対応している。また、歯科衛生士の巡回訪問があり、口腔ケアの指導なども行っている。要望があれば家族が宿泊できる体制も整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 大正琴や踊りのボランティアを依頼したり、運動会や盆踊り・秋祭りなど、地域行事への参加をすすめている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 問い合わせがあったり見学は自由に来て頂いており、必要性があれば話し合っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターの話し合いに参加して繋がりを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月2回の定期的な往診、急変時には臨時往診と柔軟な対応をして頂いている。 (外部評価) 利用者と家族の希望があれば、協力医療機関を主治医にしている。専門的な医療については入居前のかかりつけ医を受診している。月2回の往診があり、必要時には他の医療機関とも連携をとっており、利用者が適切な医療を受けられるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて受診するようにしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常に看護職がおり、健康管理や相談が出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院へ伺ったり、家族や入院先と連絡を取って情報収集に努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ご家族・スタッフ間でも何度か話は出来ているが、今後も繰り返し問いかけていく必要があると感じている。 (外部評価) 重度化や終末期に関する方針を定め、入居時、利用者や家族に説明している。時々家族や職員間で話題にするが、現在は利用者が必要がないため、具体的なチームでの話し合いはしていない。開設当初には看取りの事例があり、家族関係が良好になるなども含め、チームで関わることの意義を実感している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 常時、かかりつけ医と連絡が取れる体制をとっている。家族や本人の希望があれば、ホームでの看取りにも取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報提供や口頭にて詳細を伝えている。また、住み替え後でも気軽に相談できるようにし、本人が落ち着いた暮らしが送れるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 特に介護記録には個人名が出ないように、イニシャルを使ったり申し送り時も、声のトーンに配慮している。 (外部評価) 職員は、必ず利用者のそばへ行き、目線を合わせ穏やかな口調で声をかけている。また、利用者の言うことを否定することなく、笑顔で対応している。利用者の中に自分の名前を耳にすると気になる方がいるため、職員間で話し合う際、利用者が近くにいる場合は、名前ではなくイニシャルで話すようにしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 決して無理強いはいしない。笑顔で、自然に生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴や食事時間などは、個々の希望に合わせている。自由に居室やリビングを移動していただいている。 (外部評価) 利用者が自由に暮らせるよう、基本的な生活のリズムづくりにも配慮しつつ個別に支援している。朝食は起床時間により自由に取り、また好きな時に入浴できる、散歩や買い物なども利用者のその時の思いに柔軟に対応している。調査時も、昼食後は居室で過ごす、リビングでおしゃべりする、テレビを観るなど様々に過ごしていた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容美容も本人希望に応じて。家族の協力もあり、服装も好みに応じて購入したり着替えを行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の食べたい物を伺い、メニューに加えたり、食器ふきや野菜の皮むきなど手伝っていただいている。 (外部評価) 食事に関する一連の作業の中で、味付けや切り方を教えてもらったり、利用者の好みや力に応じて皮むきや食器ふきなどを手伝ってもらっている。法人作成の献立を基にしているが、使う食材には利用者の希望を取り入れている。誕生会や季節の行事にはご馳走を作り、皆で祝っている。花が飾られたテーブルで利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつも利用者の希望を聞き、食事や果物などの嗜好を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄段階に応じて、個別介護している。日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレを使用している方もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 夏はシャワー浴・湯はり等の希望を聞いており、入浴も本人の都合に出来る限り合わせるようにしている。 (外部評価) 入浴の曜日や時間帯は決めず、その日の利用者の希望で随時行っている。利用者ごとに湯を入れ替え、好みに合わせた湯温等にしている。入浴を拒否する方には無理強いはせず、声かけなど職員のチームワークで支援している。リフト浴があり、全員が浴槽に浸かる入浴を楽しめている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 消灯時間も特に決まっておらず、他の入居者様に迷惑にならない限り自由。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 入居までの個人の生活習慣や既往歴などのアセスメントを把握し、出来る限りその生活を継続できるよう、支援している。 (外部評価) 職員は、利用者の興味等を把握するよう努め、意欲を引き出す働きかけを実践している。日常生活の中で、できることは声をかけ協力してもらっている。また、利用者の趣味や楽しみをレクリエーションや行事に取り入れ、皆で一緒にしたり、個別に行うなどしている。男性は一緒にすることを好まない方が多いが、職員はその意向を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ある程度自己管理できる方は、各自所持金を持っているが、それ以外の方は、預かっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 人員が多い時や天気の良い時にはできる限り、希望に添うようにしている。 (外部評価) 天候や体調に配慮しながら、利用者の希望に応じて散歩、買い物、図書館やドライブに出かけている。さらに、職員が用事で出かける時に誘ったり、運営推進会議で高齢者が出かけるのに良い場所の情報を求めるなど、利用者が戸外に出かけられる支援に努めている。また、気軽に出入りできる広いテラスでの外気浴は、車いす利用者や外出をあまり好まない方の気分転換になっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別・他の利用者と共に、時々お出かけしている。ご家族とは、出来ている方と、そうでない方がいる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 外部からの電話の取次ぎ、郵便物の投函などの支援をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来所時にはお茶を出したり、居室・リビングなど自由に過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在のところ、該当者なし。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) いつでも自由に出入りが出来るようにしている。(出入りが分かるようにチャイム音あり) (外部評価) 玄関は、夜間以外はチャイムと見守りで対応し、鍵をかけていない。外出傾向のある方については、安全面に考慮しながら同行している。不審者情報があったため、家族に了解を得て夜間の施錠を少し早めているが、その代替として夜間用ブザーを設置し、夜間の来訪に支障のないようにしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室で過ごされている時は、頻回な訪室を心がけ、常に確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 外部からの差し入れがあるため、賞味期限や乾燥剤など注意を払っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒防止にセンサーマットを利用したり、誤薬を防ぐ為に、服薬介助の時には、その都度確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に数回消防署に依頼している。また、折にふれて、ミーティングなどで話し合っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署員の方に避難誘導を教わるが、実践となると訓練が少なすぎる感じがする。地域の方も、高齢者が多く民家から離れている為、協力は難しい。 (外部評価) マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、今年は5月に避難訓練を実施し、12月には夜間を想定した訓練を予定している。職員は訓練を通じて避難場所や誘導方法を確認しているが、さらに繰り返し訓練をする必要性を実感している。しかし、運営推進会議で地域の防災活動状況を聞いたにとどまり、地域との防災協力体制は確立していない。	※	非常災害時の対策において地域住民等との連携は重要であるため、運営推進会議や自治会等でホームの災害対策への理解を求め、関係機関も交えて地域住民と話し合い、実効性のある協力体制づくりを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) リスクについて話し合いは行っている。その上で個別に望む事を伺って検討し、実践している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日、バイタルチェックを行っている。また、気になる事はスタッフ間で情報を共有し、主治医の指示を仰いでいる。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診ノート・薬ボードを作成している。服薬の変更時は申し送りやミーティングで伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や水分補給、海草・果物などを積極的に摂取していただいたり、歩行運動を介助している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行ったり、自立の方には声かけをしている。必要に応じて歯科往診していただいたり、職員に歯科衛生士がおり、指導を受けている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ペットボトルにお茶を入れて、個人にお渡ししている。食事好みや噛む力に合わせて、多少アレンジしている。 (外部評価) 献立は法人の管理栄養士が作成している。食事摂取状況をチェック表に記載している。水分量は把握が必要な場合に記録しており、適切な水分量の確保に努めている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、常時見る事が出来るようにしている。また、ミーティング時に話し合うようにしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 決まった所より、材料を配達してもらっている。常に衛生に気を付け、布巾などは定期的にハイター消毒を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 季節の花を育てたり、玄関先に花を飾るなどの配慮をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた壁画作りを皆さんで楽しんだり、廊下も広く見とろしが良いようにしている。 (外部評価) リビングの、海に面した側の窓は天井近くまでのガラス窓で大きく明るい。廊下は広く、そそぎ込む自然光と室内照明とで、建物内は穏やかな明るさで風通しもよく、開放感がある。利用者と職員が季節に合わせて壁画を作り、リビングに飾っている。季節の花も途切れることなく随所に活かしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下の突き当たりにテーブルや椅子を置き、自由に過ごせるようにしている。また、リビングにもソファを置くなど、食卓テーブル以外でもくつろげる様にしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家財道具などを持ってきて頂くようにしている。 (外部評価) フローリングに畳を敷き、ホームはベットと収納タンスを用意している。テレビ、鏡台、ソファなどの馴染みの家具や、使い慣れた品、家族の写真や手作り品を思い思いに持ち込み、その人らしい居室になっている。利用者の身体変化等に併せ、安全に居心地よく過ごせる工夫をその都度家族と相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気扇を利用したり、窓の開閉で換気を行っている。また、利用者の体調に合わせて、エアコンで調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 転倒時の身体保護の為、居室内に畳を敷いている。廊下やトイレには手すりをつけている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) さりげない介助を心がけて、自尊心を傷つけないように配慮している。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 共有の場(テラス)には野菜や花のプランターを置いている。個人で花を育てている方もいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中で、バイタルチェックやコミュニケーションを図るなどで聞き取り、出来る限り本人の意に添うようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	10時のお茶の声かけ・15時のおやつの時など、個人的にお話したり希望者によるレクリエーションを楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれの個性を活かしながら、無理強いはせず楽しく暮らしていけるよう支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常動作が不自由な方から、本人と話し合いながら離床や入浴介助をする事で、元気になりたいと生活意欲の向上が見られている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月に1～2回、出来る限り全員参加による外出を計画・実行している。また、日々の暮らしの中で、買い物・図書館・散歩等の希望があれば対応している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的なDrの往診があり、状態変化時には報告する事で、臨時に速やかに対応して頂いている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の日常の生活の様子の変化や訴えなどを聞き入れ、個別対応が出来ている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	頻回に家族との面談を設けるようにして、出来るだけ家族の要望も受け入れている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域住民の方が訪問に来られている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の役員さんと話し合いを持ったり、地域活動にも参加させて頂いている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き活きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者からの不満はなく、穏やかに生活されている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からはおおむね任せて頂いているが、何でも気が付いた事や要望があれば話して頂くようにしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)